

港区立中之町幼稚園 7月園だより

教育目標



- げんきな子
- かんがえる子
- なかよくする子
- がんばる子



令和 3年 6月 30日
港区立中之町幼稚園
園長 大橋 美都子

<http://nakanochō-kg.minato-ky.ed.jp/>

ボディイメージ

園長 大橋 美都子

梅雨入りしてから、なかなか天候が安定せず、晴れていたと思ったら黒い雲が近づいてきて突然激しい雨が降ってきたことが何度あったことでしょう。様々な夏野菜の収穫や、チョウやカブトムシの羽化が見られた6月でした。

さて、6月から3歳児太陽組も園服を着用するようになりました。自分で袖を通したり、ボタンを留めたり外したりすることはなかなか難しいようですが、時間がかかっても一生懸命にボタンと穴を見ながら自分でやろうとしています。2階へ行き、5歳児宇宙組の幼児の園服を着る様子を見ると、太陽組が苦戦している1番上のボタンは、あえて見なくても留められ、順に手を下のボタンにずらし、スムーズに進んでいく幼児が多かったです。どの辺りに手をもっていき、どのような角度でボタンと穴を持てばよいかなど見なくても感覚的に分かっているようで、友達と会話をしながら留めていました。園服の着方も、2年でこのように変容するのだと感じました。

例えば私たちは、階段を上がったり、何かをまたいだりするとき、自分の動作を目で見て確認しなくても無意識に体を動かします。高さや幅を見れば、どの程度足を上げたり動かしたりすればよいのか、感覚的に分かっているのです。また、隙間を通り抜けたり、人込みでもぶつからずに歩いたりできます。これは、自分の体の輪郭のイメージがあり、どれくらいの大きさで、どのような動きができるのかというボディイメージが把握できているということです。

今、子どもたちを見ていると、よく物にぶつかったり、踊りや体操など先生のまねをして同じように動くことが苦手だったり、動きがぎこちなかったりする幼児がいます。考えた通り、思った通りに体を動かせるためにはボディイメージを育むことが必要です。そのためには、自分で様々な環境に関わり、自分の体の動きを考えながら遊ぶ体験が大切です。くぐり抜けるためにはどのくらいしゃがめばよいのか、登るにはどこに足をかければよいのか、どう体を向ければよいのか…など、遊びの中で楽しみながらたくさん体を動かしてボディイメージを育てていきましょう。それがやがて、生活動作のスムーズさにもつながっていくのです。

7月は水遊びが始まります。今年度、プールは設置しませんが、先生たちは様々な水遊びが楽しめるよう準備をしています。感染症予防と共に熱中症予防にも努めながら暑い夏を元気に過ごせるようにしていきます。



夏野菜が次々収穫できています。



カブトムシが成虫になりました。



新園舎建設も着々と進行中。